

R 7 . 4 . 1 5

第3号

通巻 164号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷 1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114



学院・春季霊祭

「本部広前の修行生」として

学院長 大代 信治



本日、学院本科卒業証書授与式を迎えました。入学の折に教主金光様から頂いた「ここまでに受けたおかげを思い返してみてください」とのお言葉は、ともに修行をする者として大切に頂いてまいりました。事毎に天地のお働きや、金光様の御取次、あいよかけよの世界を感じ、さらには両親や家族、全教の祈りの中にあることを確かめ続けてきました。

学院での一年あるいは一か月間、日々金光様の御取次を頂き、あらゆることに神様のお働きを頂いてきました。あらためて「本部広前の修行生」として、生活の起居一切にわたるすべてのことが修行になっていたと気付かされるのです。

信心は自らが生きることとして取り組むことが大切です。誰しも悩みや課題があり、不安や孤独を感じ、体調や心境に、身の上に難儀なできごとも起きてきます。そうしたときにこそ、「神に心を向ける」「神の願いに生きる」という信行目標を掲げて取り組んだ日々が思い返されてくるでしょう。

時代社会の変遷と共に、価値観や人生観などは変化していくものです。信心におけるおかげも意味が変わってくるかもしれません。それでもこの取次の道における助かりの世界は、神様と人とがある限り変わるものではありません。

思い返すのは、学院での一場面や言葉よりも、ここにご霊地があり金光様がお座りくださり、そして私たちは御取次を頂いてあいよかけよの世界を生きてきたという事実です。実感や自覚がなかったとしても、だからこそ思い返し、御取次の心を頂きなおし、自らの信心を問い返すのです。

いま天地の中にあること、教祖様のみ跡が見えること、金光様のお心が感じられること、そして大切な仲間があるということ。隔てのない祈りに包まれて、ここからの大切な御用に立たせていただくとする私たちは、絶え間なく生きる信心を求め続ける、一生が「本部広前の修行生」なのです。

ご卒業おめでとう 先輩諸師からのごことば



金光教師の自覚



北海道
稚内教会長
中村志津夫師

学院ご卒業、誠にありがたく、おめでとございます。さて皆さんは金光教学院をご卒業され、これから教師任命のことを教主金光様に願ひ出られると思います。そして、お許しいただけましたら、教師に任命され、六月八日には、本部広前祭場に於いて、教師新任の儀がございます。

振り返ってみれば皆さんは本部広前の修行生としての一年間、学院長を始め多くの先生方のご指導と、金光様のお徳とお祈りの中で卒業の日を迎えたのです。しかし、私もそうでしたが、ややもすると学院を卒業して金光教師という冠を被ると、「自分は教師になった」と思い込み「口に真を語りつつ、

心に真のなき事」になってしまいます。どうぞ皆さん勘違いしないで下さい。信心は「実践」です。皆さんはご卒業されてからは、其々の道を歩み始めます。常に「金光様・金光様」と唱えながら、御取次を通して神様の御意志を分らせていただきますように。

改めてご卒業おめでとうございます。



修徳殿入殿

いただいたお徳を使って



滋賀県
草津教会長
岸野美輝師

皆さんにはこの一年、定められた修行や学行に加え、五代金光様のご葬儀の御用にお使いいただかれるなど、格別の学院生活を送られたことと有り難く思わせていただいております。また、私の息子が皆さんの仲間であることも嬉しいこととございました。

ある先生が、「ご本部のお徳にどっぷりと浸かせてもらいなさいや」と、入学を前にした息子に言葉をかけてくださいましたが、正に皆さんは一年の行を通して、ご霊地源泉のお徳の湯にしっかり浸かって来られたと思います。そしてめでたく今日その湯から上がって、一人一人身も心もお徳でつやつやされているに違いありません。何と有り難いことでしょうか。どうかそのお徳を、皆さんのこれからの持ち場、立場で思う存分活かしていられることを願ってやみません。

お徳には、「人を助けるために、神様

から先渡ししていただいている力」という一面があるかと思えます。このお徳を使って、神様のみ思いにお応えさせていただくべく、「金光様の手となり足となり、杖道具ともなつて御用にお使いください！」との熱い祈りで、ご一緒にお役に立たせていただきましたものであります。どうぞよろしくお願ひします。

地を肥やせ



令和5年度卒業生
広島県
芸備教会
佐藤武夫師

入学したての頃、特に、修行輔導期間中は慣れない学院生活で覚える事も多く、一日一日がとても長く感じられ、そこからの学院生活に不安も感じられた事だと思えます。しかし、気がつけば瞬間に過ぎた十一か月だったと感じられる方も多いのではないのでしょうか。

皆様が無事学院での修行を終えられ、これから共に御用にお使いいただける事を心強く思っております。改めまし

て、ご卒業おめでとうございます。

私は昨年から畑を始めて、「土作り」の大切さを知りました。どれだけ世話をしても、土が肥えていなければ、いい野菜は育たない。逆に土が肥えていれば、何を植えても良い物ができる。

教祖様は常平生から、「お陰を蒙って地を肥やせ」と仰っておられたそうです。「地を肥やす」とは「心を肥やす」という事でしょう。この十一か月間、御

霊地で金光様の御取次を頂き、様々な先生方から教えを頂き、金光様をはじめ、御家族、そして全教からの祈り、願いが込められた皆様は、少しずつ心が肥えてきているのだと思います。どうぞここから更に心を肥やし、一人一人が金光

大神の一人乃弟子の自覚を持ち、私も共に御用にお使いいただける事を願っております。



年頭御用奉仕

修行の景色



令和5年度卒業生
岡山県在籍
岡本 金光大千世師

ご卒業おめでとうございます。ここから皆様と一緒に御用をさせていただけますこと、大変有り難く、嬉しく思います。

ご卒業された今、皆様はどのような実感を抱いておられるでしょうか。

一年前のことを振り返ると、私にとっての学院生活は、神様が「これぞ!」というお差し向けを詰め込んでくださった十一か月であり、それまでの人生すべてが神様からの賜物だと感じられるようになった時間でした。

そして、今になって思わされることは、十一か月間、繰り返しした一日一日の中の出来事、気づき、景色、言葉、思い、香り、祈り…。それらは、この先で味わい直し、頂き直し、それでやっとな学院の修行成就になるのかもしれないということ。幾度となく聞いたみ教えも、教規前文も、「学院生活の願い」もそうです。皆様が抱かれた様々



教話実習



教庁見学

な実感、またここからの気づきを、お道の仲間として嬉しく有り難く共有できる日を楽しみにしております。そして、共にその輪を世に広げる御用をさせていただきたいと思っています。私は信行輔導期間の後も同じご霊地で修行させていただくことができ、大変幸せでした。喜びいっぱいには神様に向かわれる皆様のお姿は、本当に輝かしく有り難かったです。これからも同じ天地、大きな天地の中です。それぞれにここからの御用が成就されますように!

日程

(冬期在籍教会実習後から卒業まで)

12月	29	帰院式
	30	大掃除
1月	5	第五回 求道の日
	5	実践課題設定週間
	8	教話実習②
	15	他宗教研修(井山宝福寺)
	20	教典研究発表
2月	1	第六回 求道の日
	4	他宗教研修(立正佼成会 岡山教会)
	7	教庁見学
	11	第三回 部屋替え
	13	礼典実習
	20	在籍外教実習
3月	8	学院講堂障子張り替え
	9	第三回 修徳殿入殿
	11	第三信心レポート懇談
	23	学院・春季霊祭
	24	学院・春季霊祭
	27	天地金乃神大祭御用奉仕
4月	8	邑久光明園訪問(自主活動)
	12	学院・天地金乃神大祭
	13	身辺整理・大掃除
	14	卒業証書授与式
	15	卒業証書授与式

学院生活を振り返って 学院生の声!

神様からの贈り物



大阪府・山阪教会
宮武 多恵子

ご霊地のお徳に包まれ、金光様のお傍においていただきました。この十一か月間の学院生活は、神様からの贈り物。

三代教会長である主人のご事蹟(学院)を知りたい、見たい、感じたい。ただそれだけで、ご霊地に來させていだきました。一年前の自分を顧みますと、もし退学になって、教師になれないなら、しかたないかなと思っておりました。なんて恐ろしいことを思ってたんだ。神様にお暇を頂くことは怖いことなのに…。神様は贈り物を「用意してください」の…。

「たえちゃんが思っているほど、この神さんはちっちゃないで」。卒業を控

えたある日、同期からのこのお言葉は、衝撃でした。「あつ、私はこんなにも神様に可愛がっていたいておりながら、どこか、自分の腕を信じ、自分の腕を拜んでおった」と気づかせていただきました。

親教会の初代教会長先生の「神様はご主人、自分は奉公人」というお言葉を胸に、どこまでも神様におすがりし、できんていい、できんからこそ神様に足していただき、先人のご恩に報い、「親が助かり、自分が助かり、子孫が助かり、まわりの人が助かる」御用にお使いいただきたいと願います。ありがとうございます。



求道の日(神習)

本部広前と同じ心で



奈良県・五条教会
杉田 明信

学院生の一日は、六時の本部広前での御祈念から始まり、その日の奉仕のお役に当たった学院生が先唱の御用をさせていただきます。本部広前での先唱は、「めっちゃ気持ちいい！」です。自分の声が内殿・外殿に響いて、ついついペースがゆっくりになってしまい、六時三十分のベルが鳴ってしまいます。学院生みんなの足が「チーン」って感じですが。

初めて本部広前で先唱をさせていただいた時のことは今でもはっきりと覚えています。いつ立ち上がるのか、金光様へのお届けの文言、作法や拝詞の順番、心中祈念の時間を計るなど、気を付けることが多すぎて、頭の中はパニックでした。しかし、その時、本部広前と金光様を頂き抜いた先代教会長である祖父の笑顔が脳裏に浮かび、「今、私がこの本部広前で先唱していることを、祖父は絶対に喜んでくれている。」

だから、祖父と一緒に御祈念をさせていただこう」と思えました。本部広前で、七年前に帰幽した祖父と出会い直し、一生忘れることのできない本当に幸せな時間でした。

学院を卒業してからも、祖父のように毎回の御祈念を金光様がおられるお広前でさせていただいているという気持ちで、楽しみたいです。



自主活動(野球大会)

自主活動(院内の草抜き)



学院に入って本当によかった



兵庫県・香櫨園教会
武部 天童

入寮の日、「二年ここでやっていけるのかなあ」と思いましたが、みんな優しく、面白い人達で、すぐに打ち解けて楽しく過ごすことができました。

今まで大きな怪我や病気をしたことはなく健康でしたが、十一月、膝に激痛が走り、病院へ連れていってもらいました。しばらく松葉杖での生活をしましたが、みんなが、本当によくしてくれ、無事に回復することができました。普通に歩けるのも当たり前ではないと、神様に教えてもらって、日頃の健康へのお礼が大切だと思うことができました。

自分で一番変わったと思うのは、勉強する習慣ができたことです。学校では、全く勉強していませんでしたが、ふと、以前から少し興味があった英語を勉強し始めたら、不思議と今も続いています。これには、英語ができる同期生が二人もいていろいろ教えてくれ

たり、ハワイの信奉者の方々が学院見学に来られ、英語で話す機会があったりと、神様が後押ししてくれたからだと思います。

人と人との関係で言葉は大切ですが、それと同時に相手を思いやる心が大事ということも学院で学べました。ここからは、世界の人に金光教を伝えられるような教師になれるよう、夢に向かって進んでいきたいです。

ここまでの歩み

■他宗教研修(井山宝福寺、立正佼成会)

他宗教研修として、一月十五日に臨

済宗井山宝福寺、

二月四日に在家仏

教教団である立正

佼成会の岡山教会

を訪ねました。宝福

寺では、



井山宝福寺・座禅

法話、座禅修行、作務など、寒中に伝統的な仏教の修行を体験した。立正佼成会岡山教会では、体験説法として、信奉者方々の信仰体験を聴かせていただき、その後、車座になりそれぞれの悩みや問題を分かち合い、信仰的な受け止め方を語り合う法座も体験させていただきました。最後には、教会長が学院生それぞれの質問に対して、ご自身の信仰的な体験も踏まえて丁寧にお話しくださいました。これらの研修を通じて、違う宗派の実際に触れ、広く宗教の働きや役割を理解することができた。そして、ここまで学んできた本教についても今までは違った視点で見直し、自らの使命と役割を確かなものにする機会ともなった。また、多くの方から、学院生へ期待と励ましの言葉が頂き、大変ありがたかったです。



立正佼成会(岡山教会)・法座

■礼典実習

礼典実習では、「祭式」及び「祭詞」の授業で習得した基礎的内容をもとに、葬儀式、五十日祭並びに合祀祭、結婚式、地鎮祭の各諸祭を、お供え物の調餽や祭服を着て祭典を仕えるなど、実際に近い形で執り行った。各諸祭の意味合いや次第を改めて確認し、各祭典の設えを時間内に皆で分担して仕える

礼典実習(地鎮祭)



礼典実習(五十日祭)



ことができた。また、全員がいずれかの諸祭で祭主を務め、自らが起草、浄書した祭詞を奏上する貴重な機会ともなった。卒業後の御用も念頭に、それぞれが真剣に実習に取り組むことができた。また、在籍教会実習中に葬儀式などの諸祭を御用に携わった学院生もおり、礼典実習での学びを活かすことができたようである。

■在籍外教会実習

在籍外教会実習(二月二十日〜三月三日)は、本部広前の修行生として、在籍教会以外の教会活動の実際に加わり、教会長の信心や教会現場の布教姿勢に触れることを通して、これまでに培った自らの信心・求道姿勢を吟味し、自己の役割を明確にしていくことを願いとして実施している。

各々緊張した面持ちで出発したが、十二日間の実習を終えて帰院した時には、充実した実習であったことが伝わってくるような、よい表情であった。

様々な御神縁を頂き、教会長先生のご教導のもと、教会現場での信心に触れ、布教の実際を見させていただく中で、多くのことを学び、様々な気付き

や示唆を得たようである。一人ひとりが神様の働きを感じた十二日間の実習だったようだ。

■邑久光明園訪問(自主活動)

ハンセン病を正しく理解し、教師を志す者として、人間のあらゆる問題を信心の目で洞察することの大切さを学ぶことを願いとして、四月八日、自主活動として国立療養所邑久光明園を訪問した。

園に到着後、園内で亡くなられた方々の納骨堂でご祈念をした。その後、園内でお道の信心を続けてこられた金光教求信会のお広前を参拝し、求信会



邑久光明園(金光教求信会のお広前)

の榎本初子さんと懇談をさせていた。榎本さんの一方ならぬ状況の中を歩んでこられたお話に皆が真剣に聞き入り、深く考えさせられた。

午後には、園内の研修室で、青木美憲園長から、ハンセン病の正しい知識と、差別や偏見から誤った隔離政策を続けてきた負の歴史をご講義いただいた。青木園長が仰ったハンセン病の問題は我々一人ひとりの心の問題であり、ハンセン病の負の歴史を絶対に繰り返してはならないということは、我々にとっても大切だと感じた。意義深い学びの機会を得ることができ、次年度以降も継続していきたいと願っている。

■学院春季霊祭・天地金乃神大祭

本部広前のご比礼を受け、学院広前において、三月二十四日に春季霊祭が、四月十二日に天地金乃神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と、学院霊舎に祀られている物故職員・学院生を合わせた二百三十五柱の霊神様のお働きを受け、ここまでの学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。

学院生は、入学からここまで学んできたことを活かし、祭員や祭詞の起草・浄書、神饌物の調饌、奏楽等の御用に真心を込めて取り組み、ここまでお育ていただいたお礼を神様、霊様に申し上げ、これから先のそれぞれの御用成就を願った。



学院・春季霊祭



学院・天地金乃神大祭